

設問	解答例
<p><b>問題—1</b>                      建築生産におけるコスト管理の役割と目的について、  <u>それぞれ50文字から200文字以内</u>にて記述せよ。</p>	<p>(役割)                      発注者のために企画・設計・発注調達・工事・運用の各段階で建物の価値を高め、かつ建設コストを低減するために、短期的および長期的視点でコスト管理を行う。                      (建築コストガイドブックP-8)</p> <p>(目的)                      各分野での立場は異なるが、目的には、事業意思決定目的、予算管理目的、価格決定目的および原価管理目的等がある。                      (建築コストガイドブックP-9)</p>

設問	解答例
<p><b>問題—2</b>                      プロジェクトにおける下記の段階ごとのコスト管理業務を<u>3つ</u>選択し、それぞれの主たる業務内容を箇条書き(<u>4つ</u>)にて記述せよ。</p> <p>1. 企画段階                      2. 基本計画段階                      3. 基本設計段階                      4. 発注者側の施工段階</p>	<p><b>1. 企画段階</b>                      1) 建設事業費の予算策定                      2) 事業採算性の検討                      3) コスト配分計画の作成                      4) 発注戦略の検討・支援                      (建築コストガイドブックP-3 4)</p> <p><b>2. 基本計画段階</b>                      1) 実績工事費事例調査                      2) 基本計画案のコストスタディ                      3) 工事費概算書の作成                      4) 建設市場調査の実施                      5) コスト管理表の作成                      (建築コストガイドブックP-3 6)</p> <p><b>3. 基本設計段階</b>                      1) 工事費概算書の作成                      2) 建設市場調査の実施                      3) コスト管理表による確認                      4) 設計VE                      (建築コストガイドブックP-3 9)</p> <p><b>4. 発注者側の施工段階</b>                      1) 工事費総額についての予算管理                      2) 工事の出来高に関する工事費支払審査・確認                      3) 設計変更などの関する工事支払い妥当性の審査・確認                      4) 工事費最終清算業務                      (建築コストガイドブックP-4 2)</p>

設問	解答例
<p><b>問題—3</b></p> <p>我が国は地震大国である。地震に対応する工法の一つとして免震構造があげられるが、その免震構造の特性について <u>100文字から200文字</u>以内にて記述せよ。</p>	<p>免震構造とは、水平方向に柔らかい免震層を地盤と建物の間に介し、地盤の揺れの周期に対して建物の振動周期を長くして地震動との共振を抑えることにより、建物にかかるせん断力を大幅に小さくする。また、建物が大きく変形しすぎないように制御するとともに、建物振動が早く収束するよう運動エネルギーを吸収する機構を持つ。</p> <p>(建築コストガイドブックP-52)</p>

設問	解答例
<p><b>問題—4</b></p> <p>建築数量積算基準の概要について、 <u>50文字から200文字</u>以内で記述せよ。</p>	<p>建築数量積算基準とは、建物を造るために必要な、仮設、躯体（土工・コンクリート・鉄筋・鉄骨・型枠等）、および仕上げ（内外）などの数量を求める計測・計算方法を定めたもの。</p> <p>(建築積算士ガイドブックP-202)</p>

設問	解答例
<p><b>問題—5</b></p> <p>精度の高い工事費を作成するために、設計図書の精度に関して留意する点を、 <u>100文字から200文字</u>以内で記述せよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計図書を受理した時点で不足図面があればその時点で設計者へ不足図面の要望をおこなう。</li> <li>・数量計測を進める過程で設計図書の不明な点について文書にて質疑応答をおこなう。</li> <li>・図面等を勝手に解釈すると設計の意図と異なる結果になり、工事費に影響を及ぼすこととなる。</li> </ul> <p>(建築積算士ガイドブックP-227 (2) 設計図書の精度)</p>